



## 7.曲げ配管が必要な場合、許容曲げ角度一杯まで曲げて設計してもよいですか？



許容曲げ角度一杯までの曲げ配管は可能ですができる限り避けるようにし、適切な曲管を使用するようにしてください。

ダクタイル鉄管の曲管の曲がり角度は最小でも 5° 5/8 までですので、それ以下の曲げ配管は直管の継手部で行います。ただし、設計段階から許容曲げ角度一杯まで曲げてしまうと、施工時の誤差や不同沈下などによる施工後の継手の屈曲を吸収する余裕が少なくなってしまいます。

また、継手を曲げると曲がりの外側の挿し口が伸び出すため、耐震性が低下することにもなります。このため、曲がり部には極力適切な曲管を使用するようにし、どうしても継手を曲げる必要がある場合は許容曲げ角度の二分の一程度までになるよう設計することが望ましく、このことは「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説(設計『パイプライン』)」(平成21年3月：農林水産省農村振興局整備部設計課)においても規定されています。

なお、エンドユーザーの仕様書で設計時に許容される曲げ角度が設定されている場合もありますので、事前にご確認ください。

